

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう}放送原稿（7月25日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。^{か ごしまけんりつあま}鹿児島県立奄美^{み としよかん}図書館です。

毎日、暑い日が続いています。皆様、いかがお過ごしでしょうか。今回は、8月1日に新しく入る本の中から5冊を紹介いたします。

はじめに、一般書のご紹介です。

1冊目は、^{なし き か ほ}梨木香歩さんの小説、『^{うみ}海うそ』です。梨木香歩さんは児童文学作家としても有名で、代表作に『^{うらにわ}西の魔女が死んだ』『裏庭』などがあります。

このお話の舞台は、南九州にある架空の島です。時は昭和の初め、大学の研究者である主人公は、島の民俗について調べるため、夏期休暇を利用して島を訪れます。島民の協力を得ながら現地調査をすすめていくなかで、主人公の発見や驚きが描かれ、読んでいる私たちを想像の世界へ導いてくれます。そして、島の持つ独特の雰囲気と一緒に体験しているかのような感覚をおぼえます。

タイトルにある「海うそ」は、ここでは、^{しん き ろう}蜃気楼のようなものを意味しています。島での滞在を通して主人公が見つけたものは何だったのでしょうか。ぜひ主人公の思いを共感していただきたい作品です。

2冊目にご紹介するのは、『これだけは見ておきたい日本の産業遺産図鑑』という本です。日本の近代化に貢献した産業遺産群が、地方ごとにカラー写真で紹介されています。先月、世界遺産に登録された富岡製糸場をはじめ、全国各地の産業遺産74箇所が掲載されています。そして、それぞれの遺産の所在地、見学の不可、アクセスの方法が明記されています。芸術的な建造物に、実際に出かけて、見てみたくなるに違いありません。九州・沖縄地方からは、八幡製鉄所関連施設、三池炭鉱、軍艦島など15の遺産が紹介されています。こちらの本は、2階閲覧室の「世界遺産コーナー」に置かれる予定です。

次に、児童書をご案内しましょう。

1冊目に紹介するのは、^{きみしまひさこ}君島久子さんの書いた、『こんや、妖怪がやってくる』という絵本です。夏の夜に読んでみてはいかがでしょうか。

もともとは中国の少数民族が代々語り伝えてきた物語だそうです。読んでみると、日本の昔話とよく似たストーリーのように感じられるかもしれません。妖怪を退治するために登場するのが、卵、ぞうきん、こん棒、火ばさみ、というのが、なんとなくユーモラスでも

あります。いったいどんなふうに妖怪をやっつけるのでしょうか。それは、読んでのお楽しみです。

2冊目に紹介するのは、『石の卵』という写真絵本です。作者は、山田英春^{ひではる}さんという方です。この本で取り上げられている「ドラゴンの卵」「雷の卵」と呼ばれている石をまっぴたつに割ってみると、外からは想像できないような美しい模様があらわれます。まるで人の手によって作られたかのような模様です。この石は世界各地にあり、一つとして同じ模様のものはなく、どのようにしてできあがっていくかもまだ解明されていないそうです。自然にできたとはいえ、どうしてこのような模様になるのか不思議です。どんな模様なのかは、実際に本を開いて確かめてみてください。夏休みの自由研究に、石ころ集めもいいな、と思えるかもしれません。

次は郷土に関する本のご案内です。

奄美大島の高校生たちが登場する物語、『水平線のぼくら～天使のジャンパー～』という本を紹介します。著者の仁木英之^{に き ひでゆき}さんは大阪府生まれですが、「どうしてこんなに奄美のことを知っているの？」と尋ねたくなるくらい、日常生活で私たちにとってなじみのある場所がたくさん出てきます。すぐに物語の世界に入っていける楽しさが味わえる1冊です。

部活を通して、友情があり、せつない恋がある。時には青春小説にどっぷり浸かってみるのもいいかもしれません。かたい友情で結ばれた4人の高校生たちの見つめる先を、一緒に見つめてみませんか。きっと彼らから勇気をもらえるはずです。

学校は夏休みに入り、毎日多くの皆様に図書館を利用していただいております。暑いなか、涼しい図書館でぜひ多くの本との出会いを楽しんでください。

以上、鹿児島県立奄美^{かごしまけんりつあまみとしよかん}図書館でした。